

# 水田たより 7月号

令和6年7月2日

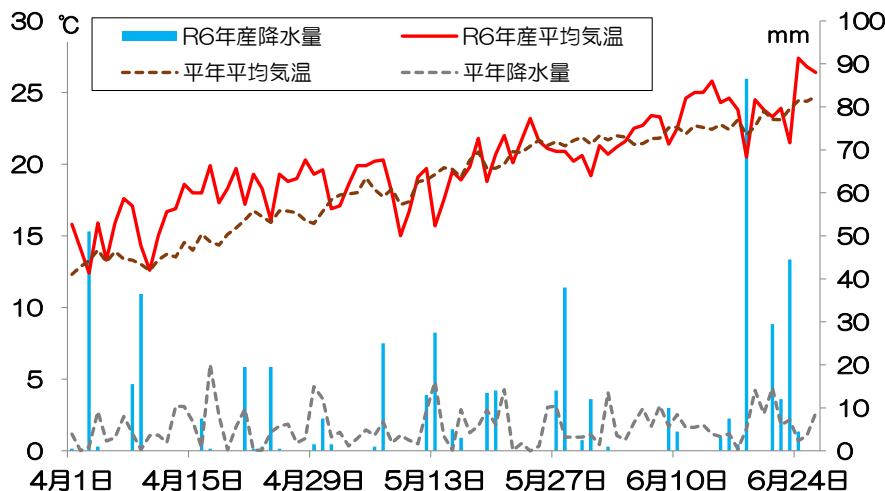
JA みえきた

桑名地域農業改良普及センター

## 水稲

### 気象状況と出穂期予測

4月は高温、5月はやや低温から平年並みで推移しました。6月は梅雨入りが遅く高温が続いたため水稲の生育が進みました。



#### R6/4/1~6/26の概況

- ◇積算気温  
1732℃(平年 1638℃)
- ◇積算降水量  
537 mm(平年 479 mm)
- ◇積算日照時間  
559時間(平年 586時間)

#### ◇出穂予測（6月27日時点）

生育基準田調査およびメッシュ農業気象・水稲生育予測システムから出穂期見込みを算出。

品種	移植日	出穂期見込み（前年）
あきたこまち（長島）	4月12日	7月3日（7月5日）
コシヒカリ（桑名）	4月27日	7月16日（7月18日）

## 水稲

### 白未熟粒対策

近年、白未熟粒の発生による1等米比率の低下が見られています。白未熟粒は出穂後20日間の高温（平均気温が27℃以上）や登熟期の窒素栄養不足によって増加する傾向にあります。気象庁の3か月予報によると今作中の気温は平年よりも高くなる確率が高いため、注意して対策をとりましょう！

#### ①水管理

出穂期以降は間断灌水を行い、根に酸素を送り活力維持に努めましょう。

収穫前は早期落水を避け、刈取りの1週間前を目途に落水を開始しましょう。

#### ②耐暑肥の実施

- ・施用時期：出穂期
- ・施用量：N 1 kg/10a

基肥一発肥料を使用しているほ場でも、出穂期の高温が予想される場合には耐暑肥が有効です。

## 水稲

### 水稲の出穂に伴い、カメムシ類に注意！

・暖冬の影響により、カメムシ類の越冬数が増加していると予想されます。すでに果樹カメムシ類は多発しており（三重県病害虫防除所 HP より）、**斑点米カメムシ類も多発**すると考えられます。

・早生品種で発生した成虫が、出穂直後の中晩生品種に飛来すると考えられます。**早生品種の適期防除は中晩生品種の被害軽減のためにも重要です。**

#### (1) 薬剤防除

**2回防除**を徹底しましょう！

○イネカメムシの優占しているほ場

**1回目：出穂期（全茎の40～50%が出穂）**

→不稔の発生を抑制！ 出穂期直後がベスト！

**2回目：1回目散布の2週間後**→斑点米の発生を抑制！



イネカメムシ



クモヘリカメムシ

○イネカメムシ以外の斑点米カメムシ類が優占

**1回目：穂ぞろい期**→不稔の発生を抑制！

**2回目：1回目散布の7～10日後**→斑点米の発生を抑制！

※近隣県ではイネカメムシにおいて、エチプロール水和剤への感受性低下の事例が報告されています。他の剤を含め、感受性低下を防ぐために、同一薬剤の連用を避けましょう。

#### (2) 畦草雑草の管理

畦草雑草は斑点米カメムシ類の発生源となる恐れがあります。出穂10日前までに除草を終えましょう！

**今年もカメムシ類の被害多発が予想されます。徹底防除しましょう！**

## 大豆

### 適期播種して、雑草防除！

・大豆の播種適期を迎えています。生育量を確保するために**7月上中旬の播種**を心がけましょう。  
・大豆の収量には初期生育が大きく影響します。また、大豆は播種後2か月程度で株間を被膜することから、**播種後2か月間雑草防除を徹底**し、雑草の生育に大豆の生育が負けないようにしましょう。

#### (1) 播種直後の雑草防除

・除草効果を十分に発揮するために、処理は適度な降雨がある日の前後にすると効果的です。

**商品ラベルをよく読んで使用してください。**

・土壌処理剤の散布は必ず播種直後に行いましょう。また、薬剤の多くは雑草の出芽後では効果が劣るため、雑草の出芽前に処理することが重要です。

#### (2) 中耕・培土

中耕・培土をすることで、雑草防除、湿害防止、倒伏軽減、土壌の通気性改善が期待できます。開花後に中耕・培土を行うと、大豆を傷めてしまうので、開花1週間前までに行ってください。

#### (3) 茎葉処理剤の散布

・狭畦栽培の場合もしくは、中耕・培土体系で雑草の取りこぼしが目立つ場合に必要です。  
・雑草の草丈が大きくなるほど、薬剤の効果は小さくなります。なるべく雑草が小さいうちに処理しましょう。

過去の水田たよりは桑名地域農業改良普及センターのホームページでご確認いただけます。「桑名普及」でご検索ください。



桑名普及

検索